

令和3年度学校自己評価システムシート (県立熊谷高等学校 定時制課程)

目指す学校像	自ら考え、判断し、目標に向かい着実に努力するとともに、他者への思いやりの心を持った心豊かな生徒を育てる学校
--------	---

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> わかる授業に徹し、基礎学力の充実を図る。 生徒理解を深め、学校生活への適応指導を充実する。 積極的な情報発信、外部機関との連携を図り、開かれた学校づくりを推進する。 安全・安心な学校づくりに努める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	6名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	5名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 2 4 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人を大切にすることを実現する観点から個々の生徒の習熟度の把握に努め実態に即した指導計画の作成に取り組んでいる。生徒の学習意欲をさらに高め学力を向上させるために「学びの基礎診断」を活用した生徒の学び直しをサポートする体制強化およびICT機器利用やアクティブ・ラーニング手法の導入による授業改善の取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学びの基礎診断」等を活用して生徒の学習達成状況を把握し、学習意欲を高め適切な学習指導を行うとともに、自己の成長を実感できる進路指導を充実させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 「学びの基礎診断」を年3回実施、基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルを構築する。 ICT機器の利用、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れるなどの授業改善への取り組み。 進路面談を年2回実施するとともに、進路資料室を整備・有効活用する。 	<ol style="list-style-type: none"> 「学びの基礎診断」における学習達成率 各学期末および学年末の欠点保有生徒数 卒業学年の生徒の進路達成率 ICT機器利用やALが効果的に行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態把握のため、授業と基本的な生活習慣に関する生徒および保護者対象のアンケートを初めて実施した。 休学者を除く欠点保有率が対前年比で62%減少し、大幅に改善できた。 昨年度に63%から75%に上昇した進路決定率を今年度も維持した。進路未定者の指導を継続中である。 タブレットやプロジェクタ等ICT機器を利用した授業を実施した。 未来を拓く「学び」プロジェクトの研究開発員を中心にアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果をふまえ、①生徒の授業満足度(約90%)を維持し、②学習意欲(76%)を向上させるため、以下の取組みを継続する。 ICT機器活用、アクティブ・ラーニングによる授業など主体的な学びをサポートする体制強化。 「学びの基礎診断」を有効活用して個別指導を充実させる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 新入生が学校生活に適応できるようにSCやサポステなどの外部機関と連携、授業、面談指導、部活動等とおして生徒が抱える問題を把握し、学校生活を充実させるきめ細かい指導を心掛けている。学校生活にやりがいを感じ学校や集団への帰属意識を高めるためにも、学校行事や部活動の運営方法をさらに工夫して充実させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関と適切に連携を図りながら学校行事や部活動を活性化し、生徒の学校への帰属意識を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> 外部機関(SC・サポステ)との連携によって生徒を多面的に理解し、情報の共有により適切な指導を行う。 学校のセールスポイントとして「総合的な探究の時間」、生徒会活動、学校行事を活性化させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 定時制高校への自立支援事業を有効に活用し、生徒の中退防止につなげたか。 1日平均の欠席、遅刻人数割合 生徒の学校行事の出席率 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日廊下で生徒を迎えて健康観察や声掛けをすることで1日平均の欠席生徒数が昨年度から50%超減少した。 外部機関と連携し生徒の支援を行い、今年度の中退生徒は0名であった。 コロナ禍の影響はあったが、担任の指導により、学校行事の参加率が前年比で12ポイント上昇した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が学校生活に適応できるようにSCやサポステの活用を継続する。特に転編入学の生徒の支援を強化したい。 学校行事に生徒が主体的に参加できるように運営方法を工夫する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 本校の魅力や学校の特色を外部へ発信するためにホームページ活用や学校説明会等の運営方法見直しにより、本校への入学希望者数が増加した。 保護者や生徒との連絡を確実にするためにメール配信システムの導入やSNSによる双方向の情報発信など広報活動をさらに工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある公開行事を計画し本校定時制の特色をアピールする広報活動を充実させることで受験生に選ばれるようにするとともに、行事への保護者の参加を促す。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校行事や公開授業に関する広報活動を充実させ、保護者等の来校者を増やす。 本校の教育内容を伝えるホームページ等の内容を充実させて、学校説明会の参加者を増やす。 	<ol style="list-style-type: none"> 定時制ホームページの情報は常に最新であるか。 学校行事への保護者参加率 本校志願者数 	<ul style="list-style-type: none"> 今日のコンダテ!!2021を毎日更新した。 熊定Blogで最新の情報を提供した。 感染症対策を徹底し、1学期の面談週間に保護者を交えた三者面談を実施した。 まん延防止等重点措置の決定に伴い、学校説明会ではなく個別相談会を随時実施した。1月末現在入試の問い合わせ件数は前年並みである。 定時制の特別募集に毎年志願があり、学び直しの場所として認知されている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 欠席連絡や保護者への通知を確実にするためにメール配信システム等の導入を検討する。 中学校訪問などの広報活動に力を入れて本校の役割(学び直しできる場所)を地域へ発信し、入学希望者の増加に努める。
4	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の安全維持に努めるとともに、自校給食実施校として衛生面での安全・安心の確保に努力している。 通学時の事故防止のため、自転車運転のマナーなどを含めた安全指導の充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導を充実させて登下校中の交通事故をなくす。 安全、安心な学校生活を送るための設備・給食点検の精度を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> 自動二輪車・自動車使用者のルールを整備して、交通安全教育(マナー指導を含む)を行う。 巡回による設備点検を定期的に行い、給食点検や検食を確実にを行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 登下校時の交通事故件数 HR教室や使用教室に危険な場所はないか。速やかに改善したか。 安全に配慮して給食を提供しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 木材とビニールを用いた手作りのパーティションを31台製作して給食室へ設置し、消毒等と併せ生徒の安全に配慮した。 給食室を随時点検し適切に修繕を行うことで安心な学校生活を支えた。 自転車・バイク・自動車点検を毎学期実施し、交通安全教育に力を入れた。 新型コロナウイルス感染症対策のため毎日の消毒作業時に教室の点検を実施した。 地震後の火災を想定した避難訓練を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 通学時の安全確保のため、自転車運転のマナーなどを含めた安全指導のより一層の充実を図る。 消毒作業の効率化を図りながら感染症拡大防止に努める。 地震や台風などの災害に備えた防災計画立案と防災訓練の充実を図る。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和4年2月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 学習サポーターの活用について、6割以上の生徒から、「授業の雰囲気が悪くなった」「課題学習の助けとなった」という反応があり、多くの生徒が継続を希望している。また、これまで同様、生徒の学習意欲を喚起し主体的な学習を促すためにもICTを積極的に活用した授業を多くの生徒が希望している。 	
<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活のためにきちんと学校へ行っている。体調が悪い時も短時間なので通いやすい。 少人数で授業のレベルもあっているので本校に入学させてよかった。 コロナ禍にもかかわらず外部機関との連携行事により、生徒は様々な体験をすることができた。今後も生徒の様子を見ながら積極的に企画してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 感染防止対策を十分に行って多くの行事を実施したことはとても評価できる。今後も感染状況や他の対策等も見ながら教育的効果に配慮し、より良い教育活動を次年度も維持してほしい。 学校行事や給食についてホームページをおして知ることができた。今後も継続してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 登下校の安全に気をつけて通学できている。栄養を考慮した給食や施設の維持管理など引き続き安心して生活できる教育環境を維持してほしい。 生徒の健康を考慮した日々の消毒作業や感染防止に向けた教育活動が非常に良かった。生徒の安全に配慮していただいたことに改めて感謝します。 	